

東南アジア交換留学生のアルバイトを通じてみた日本

青木 香代子*・安 龍洙*

(2020年11月9日受理)

East Asian International Students' Perceptions About Japan through Working Part-Time

Kayoko AOKI* and Yong Su AN**

(Received November 9, 2020)

要旨

本稿は、東南アジア出身留学生を対象に実施した PAC 分析調査を通して、アルバイトを通して感じた異文化理解について考察するものである。本稿では、P 大学に留学したタイ人学生 3 名、マレーシア人留学生 1 名を対象に調査を行った。その結果、1) 日本語に対する不安を感じている、2) 働くという経験を通して厳しさや忙しさを知った、3) 「いい経験」としてアルバイト体験をとらえている、といったことがあげられた。

【キーワード】 東南アジア交換留学生、アルバイト、対人葛藤、異文化理解、PAC 分析

1. はじめに

本研究は、日本社会における日本人と外国人の異文化相互理解の実態とその特徴について、認知的・情意的側面から質的に検証し、日本人と外国人の相互理解と交流の課題と問題点を検討する一連の研究の一部である。本稿では、2019 年から 2020 年にかけて約 1 年間交換留学で日本に滞在し、アルバイトを経験したタイ人学生 3 名 (A、B、C)、マレーシア人学生 (D) を対象に、それぞれの学生がアルバイトを通じて見た日本の暮らしについて、仕事観や異文化理解に着目して考察する。日本学生支援機構 (2020) によると、2019 年度に日本に留学していた留学生は 312,214 人で、そのうちタイ国籍の留学生数は 3,847 人、マレーシア国籍の留学生数は 3,052 人であった。留学生全体で見ると、中国籍 (約 12 万 4 千人、38.4%) とベトナム国籍 (約 7 万 3 千人、23.5%) で全留学生の 6 割以上を占めており、残りの留学生の国籍は多くが 1%、もしくはそれ以下であり、実に様々な国出身の留学生が日本で学んでいることがわかる。日本人と外国人の異文化相互理解のた

*茨城大学全学教育機構 (〒 310-8512 水戸市文京 2-1-1; Institute for Liberal Arts Education, Ibaraki University, 2-1-1 Bunkyo Mito-shi 310-8512 Japan)

めには、在籍する大学等の教育場面だけでなく、アルバイトなどの授業外での経験における異文化理解についても検討していく必要がある。

日本に留学した東南アジア出身の学生の異文化理解について、PAC分析を用いた研究には、ベトナム人留学生の対日観に関する研究(安、2011、松田、2013)、マレーシア人留学生の対日観に関する研究(八若、2012)、インドネシア人留学生の対日観に関する研究(安、2016)、タイ・ベトナム出身の留学生の異文化理解に関する研究(青木・安、2018)、マレーシア・インドネシア・タイ出身留学生のサブカルチャーを通じた対日観に関する研究(石鍋・安、2019)等がある。これらの先行研究から、東南アジア出身の留学生の対日イメージは、「時間に厳しい」「規則やルールをよく守る」「本音を出さず、人間関係が希薄」などの印象をもっていることがわかった。

一方、留学生がアルバイトをする割合は年々増加しており、日本学生支援機構(2019)の調査によると、2017年度にアルバイトをしていた私費外国人留学生は74.4%にも上った。主なアルバイト先は飲食業が41.9%、営業・販売(コンビニ等)が28.9%であった。この調査では交換留学生のアルバイト状況は含まれていないものの、交換留学生のような半年から1年の比較的短期の留学生であっても「資格外活動」の許可を得てアルバイトをするケースが増えていることが考えられる。つまり、日本に交換留学で来日する留学生は、学内の授業や交流だけでなく、アルバイトを通して日本人や日本文化に触れていることになる。

留学生のアルバイト経験に関する先行研究はまだ多いとはいえ、在日外国人留学生の職務満足感に関する調査(閻・堀内、2019)や、私費外国人留学生のアルバイトに関する意識実態調査(伊藤・比留間、2019)等があるが、これらは主にアルバイトに対する意識を調査したものである。日本語学校に通うネパール人留学生のエスノグラフィー(岩切、2018)では、日本語能力が向上するにしたがって食品工場などの日本語をあまり必要としない職場から、コンビニや飲食店の接客業で日本語使用場面が多い職場に移るとされた。また、先述した東南アジア出身交換留学生の異文化理解に関する研究(青木・安、2018)では、日本でのアルバイト先で年配の客に日本語を笑われたり、「何でタイで仕事をしないの?」と聞かれたりし、嫌な思いをした経験が述べられており、日本人や日本に対する印象もそれに接する状況によって変わることがわかった。そこで本稿では、PAC分析を用いて日本で学ぶ交換留学生が、アルバイトを通して日本の仕事文化と日本社会をどのように理解したのかについて、異文化理解の観点から質的に探ることとする。

2. 調査方法

調査は第1部と第2部に分けられる。第1部は被調査者本人の同意を得てフェイスシートに被調査者の属性を記入させてから、質問紙を用いて以下のように調査を実施した。まず、被調査者に以下の刺激文を与え、そのイメージについて思いつくままに記入してもらった。

(質問) あなたが日本でアルバイトをしながら感じたことについて聞きます。日本で外国人が働くことや日本人と一緒に働くことについて、どんなイメージが思い浮かびますか? 浮かんだイメージを単語、または短い文で10個以上記入してください。

その後、その連想イメージを重要と思われる順序に並べさせた。更にそれぞれのイメージ項目の組み合わせが、直感的イメージでその意味内容においてどの程度近いのかを7段階尺度で評定させた。この尺度での回答をもとに、ワード法でクラスター分析し、その結果に対する被調査者自身

の解釈を求めた。最後に連想項目のイメージについて、プラスイメージの場合は (+)、マイナスイメージの場合は (-)、どちらともいえない場合は (0) の記号を記入してもらった。

第2部は口頭でのインタビューにより、1) 各クラスター及びクラスター全体の解釈、2) 上記1)の解釈についての留学前後の変化、3) 各イメージ項目に対して、そのイメージを抱くようになったきっかけや媒体、を尋ねた。インタビューは、2020年2～3月に第二著者が日本語で行った。

本稿で対象としたのは、2019～2020年の間にP大学に交換留学生として約1年間日本に滞在した留学生4名(A～D)である。いずれの学生も日本語能力は中級前半～後半(JLPT N3程度)であった。本稿では被調査者が特定されないように地名などはランダムなアルファベットで記した。また、インタビューデータの記述については、インタビューを行った第二著者の発言部分を()、省略を(…)とし、留学生の発言において日本語の補足が必要な部分には[]をつけた。被調査者の語りにおいて、内容の理解に問題があると思われる誤用は第一著者が修正したが、それ以外の日本語はそのまま掲載した。

3. 結果

3.1. 学生 A

図1は学生A(以下、「A」とする)のデンドログラムである。このデンドログラムから、4つのクラスターに分類して解釈した。

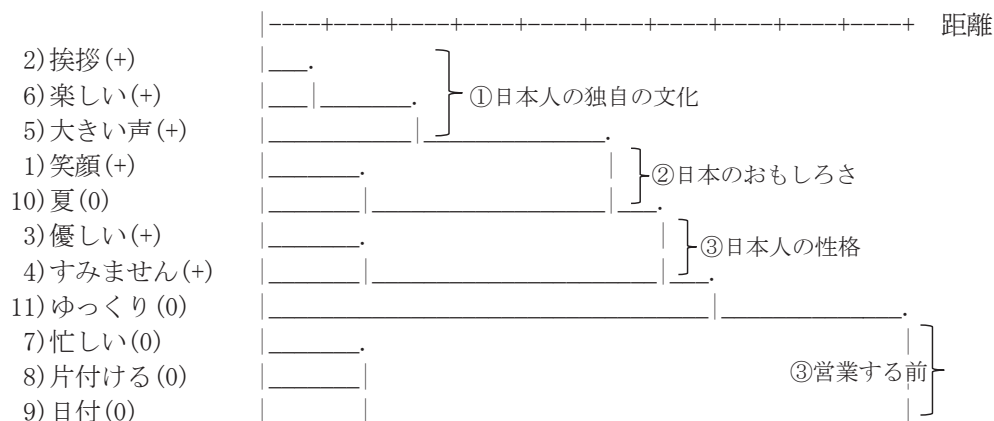


図1 Aのデンドログラム

クラスター1について、Aは「これは、なんか、日本の独自、日本人がいつも(…)あいさつするとき、大きい声であいさつします。あとは、楽しいは、(…)なんか、生活が楽しいみたいな、楽しく生活するみたいな。(それは日本人が?)はい。(例えばどんなどころ?)なんか、子どもとか、あとは。おばあちゃんと子どもが、いつも一緒に暮らしているから、なんかそのときが見る、見て、なんか、ああ楽しそうなあとと思って。」とし、来日前と来日後のイメージは変わらないと述べた。

クラスター2については、「夏が一番、祭りが楽しいと思う。」といい、P大学の学生と参加した夏祭りが楽しかったとした。その祭りには「みんなが笑顔ばかりだから、なんか、おお、いい感じなあとと思っていました。」と述べており、この夏まつりへの参加が印象に残っていることがわかった。来日前と来日後のイメージの変化については、「変わったと思う。なんか、祭りについて、私あんまり知らなかったから。」とした。

クラスター3については「日本人の性格」とし、「日本人が(…)いつも、『ああ、すみません』、ありがとうと言わないけど、『あ、すみません』、『ああ、すみません』、なんか。(よく謝る。)はい。あとは、みんながやさしい。(ゆっくりというの?) なんか、みんなが「ゆっくりやってもいいよ [とってくれる]」とした。来日前と来日後のイメージの変化については、「変わりました。なんか、日本人が、厳しい。(厳しいと思ってたの?) はい。とっても厳しいと思っていました。(…)でも、なんか、みんなも、やさしいこともある。(…) 厳しいは仕事だけ。(…) 仕事的时候はちゃんとね、こういうことちゃんとやってねって言うけど、仕事終わったらやさしい」とした。

クラスター4については、アルバイト先の「営業する前」とし、「営業前に、品出し [の] 時間、間に合うために、なんか、急いでやって、はい。あとは、片付け、お客さまが来る前にちゃんと片付けて、きれいにする。(…) あとは、(…) 商品が、日付があるから、ちゃんと確認して」とした。来日前と来日後のイメージの変化については「変わらなかった」とした。

全体のイメージについては、「日本のアルバイトやる前に、(…) 緊張した。(…) 理由は、日本語が全然話せなかったから、ちょっと、心配 [していた]。(…) できるかどうかまだ分からなかったから。でも、なんか、バイトをやってみたときに、そんな難しくない。そして、なんか、みんなが優しい。(…) 分からないことがあったら、みんなが、ゆっくり教えてくれました。」とした。

表1は、Aのアルバイトを通じた日本のイメージとそのきっかけをまとめたものである。一次調査ではアルバイトのことについて聞いたが、アルバイトとは直接関係のない夏祭りについても、日本での留学生活の中で印象に残ったこととしてあげており、授業やアルバイト以外からも影響を受けていることが分かった。

表1 Aのイメージを抱くようになったきっかけ

クラスター1: 日本人の独自の文化	
2) 挨拶 (+)	いつも挨拶している。
6) 楽しい (+)	楽しく生活する。
5) 大きい声 (+)	元気みたい。
クラスター2: 日本のおもしろさ	
1) 笑顔 (+)	まつりのとき、みんなが笑顔ばかりだった。
10) 夏 (0)	夏のまつりが一番楽しかった。
クラスター3: 日本人の性格	
3) 優しい (+)	何かするときいつも優しい。
4) すみません (0)	
11) ゆっくり (0)	日本人が遠慮を持っている人が多い。
クラスター4: 営業する前	
7) 忙しい (0)	時間に間に合うために。
8) 片付ける (0)	きれいに見えるように。
9) 日付 (0)	---

3.2. 学生 B

図2は学生B(以下、「B」とする)のデンドログラムである。このデンドログラムから、3つのクラスターに分類して解釈した。表2は、Bのアルバイトを通じた日本のイメージとそのきっかけをまとめたものである。

クラスター1について、Bは「朝」とし、「私のバイトは、なんか、朝早めにやるから、だから

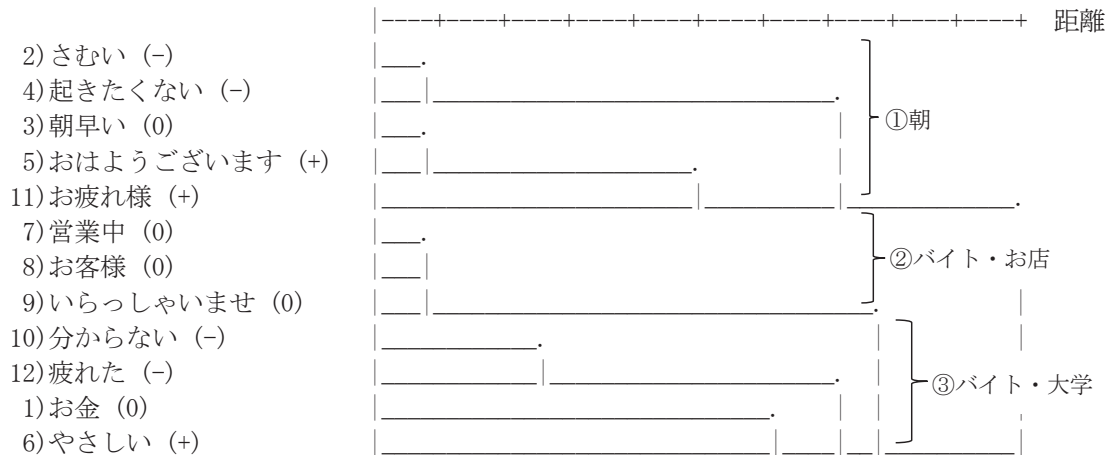


図2 Bのデンドログラム

表2 Bのイメージを抱くようになったきっかけ

クラスター 1: 朝	
2) さむい (-)	日本の天気やさむいから、タイはいつも暑いので。
4) 起きたくない (-)	タイにも日本にもそういう感じがあります
3) 朝早い (0)	バイトの時間
5) おはようございます (+)	みんなとあいさつ
11) お疲れさま (+)	バイト先の人と言う
クラスター 2: バイト・お店	
7) 営業中 (0)	9時
8) お客様 (0)	
9) いらっしゃいませ (0)	あいさつされたこと
クラスター 3: バイト・大学	
10) 分からない (-)	日本語、日本人の発音
12) 疲れた (-)	バイト、大学
1) お金 (0)	日本で使う
6) やさしい (+)	日本人

行くたくないの感じが、(…) こういうことばっかあります。(…) バイトは、7時から。(…) 朝だから、私にとって、朝だから起きたくないです。(他にありますか。) 他には、学校も関係あります。(どんな関係がありますか。) うーん、例えば、朝早めに学校行くときは、先生とか友達と会うとき、『おはようございます』って言って、授業終わった後、『お疲れさま』とか、言います。」とした。

クラスター2については、「バイト・お店」とし、「日本のコンビニとか行くときは (…) お客さまに『いらっしゃいませ』も言います。(自分の国とどこが違うと思いましたか。) タイは、いらっしゃいませってあるけど、でも、いつも言わないです。(…) 買うときだけなんか、『はい、いらっしゃいませ』、そんな感じです。」とした。

クラスター3については、「バイト・大学」とし、「書いたとき、バイト先 [のこと] だけど、でもよく考えると、なんか日本の生活も、関係あります。(どんな関係がありますか。) 例えば、こういうお金のこと、日本に来るときはお金が必要だから。(…) やさしい [について] は、日本人は、

私に、思ったより優しいです。(…) 分からない [について] は、例えば、授業やる時、分からないことがたくさんあると、バイトの先にも、お客さまが何か私に聞く [とき]、私、返事できない。(…) なんか、分からない言葉がきて、私、これ何、分からないから。(まあでも、勉強になったんじゃないですか。) そうですけど、でも日本人の発音とか、時々は方言があるかもしれないから、分からないです。(12番の疲れたというのは、どんな意味ですか。) 疲れたは、授業終わった後、疲れたです。(授業ですか、アルバイトじゃなくて?) アルバイトもです。はい、疲れた。」とした。

全体のイメージとして、タイは寒くないため、大体は「新しい経験」だったとのことであった。来日前と比べてイメージが変わったかについては、クラスター1については「変わっていない」、クラスター2については「新しい経験」、クラスター3については「一番は多分お金のこと。(…) 来る前は、日本来ると、お金がたくさん使う [とっていた] けど、でもバイトやると、私は自分のお金も、なんか、たまるんで、大丈夫と思います。(…) 来る前は、私バイトやったことないんです。」とした。

3.3. 学生 C

図3は学生C (以下、「C」とする) のデンドログラムである。このデンドログラムから、3つのクラスターに分類して解釈した。表3は、Cのアルバイトを通じた日本のイメージとそのきっかけをまとめたものである。

クラスター1については「交通費と季節」とし、「バスと電車とかはちょっと高いから、(…) 税金は [高い]。(…) タイはなんか、安いです。とても安い。(雨が深いというのは?) 雨が深いは、なんかいつも雨降ってるから。(…) タイは、雨多いですけど、[夏は] 雨、あまり降らない。」とした。来日後のイメージの変化は、「バスはタイと違う。タイのバスは古い。」とした。

クラスター2については「これは、日本人の生活とします。[3番について] 人々が [丁寧] に、(…) とても [丁寧にしゃべります] から、それはいいと思います。はい。そして日本語は、ここ [は日本だから] もし日本語できないなら、多分ちょっと大変です。(…) だから、少しできるならいいと思います。(2番について、例えばどんな食べ物が高いと感じてますか。) 果物が特に高い。(…) タイのは、とても安いですね。(…) 日本にいるから、なんか食べ物とか高いから、果物全然、買ってないです。(6番はどんな内容ですか?) 初めて会ったとき、(…) 知らない人は、なんかその、あまり話さないから、うん、多分、恥ずかしいかなあと思った。」とした。来日後のイメージの変化については、食べ物は高いと思ったが、日本の男性については日本に来て分かったことであると

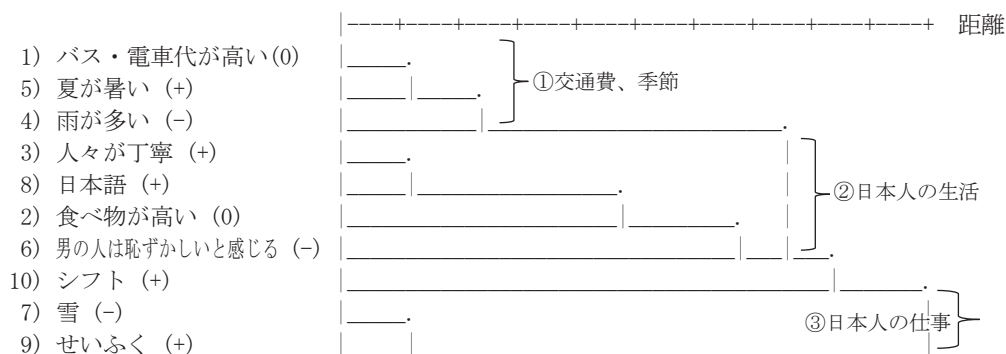


図3 Cのデンドログラム

表3 Cのイメージを抱くようになったきっかけ

クラスター1: 交通費、季節	
1) バス・電車代が高い (0)	税金が高いので、バス・電車代も高い
5) 夏が暑い (+)	夏休みはとても暑いですけど、どこも行ける。
4) 雨が多い (-)	いつも雨が降っている。
クラスター2: 日本人の生活	
3) 人々が丁寧 (+)	日本人は、どこでも、いつも丁寧です。
8) 日本語 (+)	日本にいるので、日本語がとても大切です。
2) 食べ物が高い (0)	税金が高いので、食べ物も高い。
6) 男の人は恥ずかしいと感じる (-)	いつも日本人といるから、男の人はちょっと恥ずかしい。
クラスター3: 日本人の仕事	
10) シフト (+)	シフトは働く人にとって大切です。
7) 雪 (-)	Xにあまり降らない。でも、見たいです。
9) せいふく (+)	日本のせいふくはどっちでもいい。

した。

クラスター3については「日本人の仕事」とし、「例えばシフト。シフトは、私バイトやっていますから、(…)もし、シフトないなら、なんか、あー、明日は1日、仕事ありますか、ないかなー、知らないです。(予定が決まっている方がいい?) シフトはいいと思います。はい。(雪や制服については?) 「雪は、Xにあまり降らないですね。だから、外国人〔だ〕から、雪も見たいです。(制服は?) 制服は、例えば日本の大学は制服ないですね。どっちでもいい。でもタイの大学は、制服は、大学の制服です。他の服できないです。(…)だから、これ、ちょっと違います。」とした。来日前と来日後でイメージが変わったかについて、シフトは日本に来て初めて知ったということであった。

アルバイトをしてみて、どのように感じたかについて、「日本のアルバイトは楽しかったです。いい経験だと思います。(何が楽しかったですか?) 私は居酒屋でやっていますから、〔仕事は〕楽しかったですね。なんか、お皿も、洗うとか、野菜も〔切るとか〕。で、焼き肉もやりますとか、いろいろやりました。(大変じゃなかったですか?) 楽しかったです。いい経験だと思います。」とした。また、日本の生活は「とても楽しかったですね。なんかいろいろ、いろいろな所、行きました。」とした。Cは、アルバイトも留学経験も全体的にいい経験として受け止めていることが分かった。

3.4. 学生D

図4は学生D(以下、「D」とする)のデンドログラムである。このデンドログラムから、3つのクラスターに分類して解釈した。表4は、Dのアルバイトを通じた日本のイメージとそのきっかけをまとめたものである。

クラスター1は「給料」とし、「マレーシアと比べると、日本の給料は大体、(…マレーシアの3倍と4倍ぐらい。(6番はどんな意味ですか。)) バイトやるときは、〔日本では〕いっぱいルールがありますから、やるときはちょっと、(…)難しいです。」来日前と比べてイメージが変わったかについて、は、SNSやYouTubeで日本や、バイトについても見たことがあるため、「大体同じ」であるとした。

クラスター2は、バイト中の「守るルール」とし、「敬語について、マレーシアでは、アルバイトやるときは、あんまり敬語は使いませんから、ちょっと話すときも、ちょっと怖い感じがある。

クラスター3については「驚いた」「いい印象です」とした。来日前と来日後のイメージの変化については、日本に来て分かったことであるとした。

全体のイメージについては、バイト先でたくさんルールを守らないといけないことについては「厳しい」としたが、バイトをしていないときは「やさしい」とした。

4. 考察

ここまで、それぞれの被調査者のアルバイトを通じた異文化理解についてみてきた。4名に対する第1部・第2部の調査から、アルバイトに関連するものを抽出し以下のようなことが分かった。

4.1. アルバイトに対するプラスイメージとマイナスイメージの特徴

Aのプラスイメージの項目は「2）挨拶(+)」「6）楽しい(+)」「5）大きい声(+)」「1）笑顔(+)」「3）優しい(+)」で、あいさつに関連するものが多く、マイナスイメージの項目はなかった。Bのプラスイメージの項目は、「5）おはようございます(+)」「11）お疲れさま(+)」「6）やさしい(+)」で、こちらもあいさつに関連するものが多く、マイナス項目は「2）さむい(-)」「4）起きたくない(-)」「10）分からない(-)」「12）疲れた(-)」で、気候や、日本語、気力・体力に関連するものであった。Cのプラスイメージの項目は、「5）夏が暑い(+)」「3）人々が丁寧(+)」「8）日本語(+)」「10）シフト(+)」「9）せいふく(+)」で、気候や、日本人の特徴、日本の大学との違い、バイトでの経験から来るものなど様々であり、マイナスイメージの項目は、「4）雨が多い(-)」「6）男の人は恥ずかしいと感じる(-)」「7）雪(-)」で、気候、日本の男性の特徴であった。Dのプラスイメージの項目は、「1）お金(+)」「2）給料が高い(+)」「5）自信を持っている(+)」「8）やさしい(+)」「10）日本人がもらえるものは外国人ももらえる(+)」で、経済的なことに関すること、日本人の特徴、日本のアルバイトでの待遇で、マイナスイメージの項目は、「3）ルール(-)」「4）お客様は神様(-)」で、いずれもアルバイトでの経験から来るものであった。

このように、被調査者によってプラスイメージとマイナスイメージの特徴が異なることが分かった。また、アルバイトでの体験も、被調査者によってプラスイメージが多い者と、マイナスイメージが多いものに分かれることが分かった。

4.2. 来日前後のアルバイトに対するイメージの変化について

それぞれの被調査者の来日前後のアルバイトに対するイメージの変化は、Aの場合、「日本人がもっと厳しいと思っていた」が、始めてみると厳しいのは「仕事だけ」で、仕事が終わるとやさしいということが分かったとのことであった。Bの場合、アルバイトは「新しい経験」で、日本に来たらお金を使うと思っていたが、アルバイトをすればお金が貯まるので「大丈夫」と感じたようである。Cの場合、アルバイトで使ったシフト表が便利だと感じ、日本に来て初めて知ったということであった。Dの場合、アルバイトがどんなものかについては、SNSやYouTubeを見てある程度情報を得ており、変わったイメージはなかったが、実際にはマレーシアより大変であるとし、待遇や、顧客への態度については日本に来て分かったこととして、好印象を持ったことが分かった。

4.3. 日本語に対する不安感

今回の被調査者は全員日本語能力レベルが中級程度であり、日本人とともに仕事をするにあたっては不安もあったようである。Aは、アルバイトを始める前は「緊張」したが、やってみるとアル

バイト先の人に教えてもらい「そんなに難しくない」と感じたことが分かった。またBも、アルバイト先で聞く日本語の発音や方言が分からないことがあったという経験を語っていた。Cは「日本語が分からないとちょっと大変」と、日本で生活するにあたっては日本語能力をある程度持っておくことの必要性を感じていたことが分かった。またDは、間違っただ敬語を使わないか心配で「怖い」と語っている。

被調査者の学生らは、ほぼ毎日P大学で日本語の授業を受けているものの、授業外で実際にアルバイトを通して日本人に接客したり、敬語を使ったりすることに対して不安を感じていたことが分かった。また、日本人客に聞かれて分からないことがあったり方言が聞き取れなかったりしたことが印象に残っていたことが分かった。

4.4. 働くという体験について

被調査者にとって、初めて働いた経験となったのが日本でのアルバイトであったわけであるが、それらの経験については、早朝のアルバイトをしていた学生は、「起きたくない」と感じたり (B)、また営業前の忙しさが印象に残っているケース (A)、そしてシフト表のおかげで予定が分かって便利だったと感じたケース (C) など、アルバイト経験を通して初めて知ったことが語られていた。

中にはDのように、アルバイト先にはたくさんルールがあり、店長が厳しく教えていたということが印象に残っている一方で、日本人と同じように有給がもらうことができ、いい印象を受けたことも分かった。日本語という面では不安を感じていても、有給や給料については日本人と同じような待遇であったことが、予想していなかったことであり、それが日本に対する好印象につながったようである。

4.5. 「いい経験」として

今回調査に協力してもらった留学生にとっては、日本の生活費は高く、果物もあまり買わないほどだったが (C)、アルバイトをすることで少しお金がたまり、生活することができたようである。また、初めてのアルバイト経験についても色々体験することができて「楽しかった」という語りも見られた。Cについては、日本語への不安も特に語られなかったことから、アルバイト先の日本人上司や日本人客とのコミュニケーションにおいては大きな問題はなかったことが考えられる。

また、アルバイト先の人やさしく仕事を教えてくれたことや、顧客に対する態度から、「やさしい」というイメージも多く見られた (A, B, D)。これは、先行研究 (青木・安, 2018) に見られたような体験とは対照的なものである。これらの経験の違いは、それぞれの留学生のアルバイト先の接客機会の頻度や勤務形態などによることが考えられるため、今後さらに研究が必要である。

5. まとめ

今回の調査では、調査対象とした留学生の滞日期間は比較的短く、アルバイト先での葛藤や衝突についてはあまり語られなかったが、アルバイト経験を通して初めて働くという経験をし、厳しいルールや営業前の忙しさなどが印象に残っているケースも見られた。

今後は、アルバイト経験を通してどのような場面で葛藤や違和感をもったか、またそれらをどのように克服したかなどについても研究を進めていく必要がある。長期で滞在する留学生だけでなく、短期滞在の留学生がアルバイトをする機会も増加傾向にある中、日本人と外国人が仕事を通じてどのように相互理解をしていけるのかについて検討していきたい。

謝辞

本研究の一部は日本学術振興会学術研究助成基金助成金基盤研究（C）（課題番号 17K02838, 研究代表者:安龍洙）の助成を受けて行われた。

引用文献

- 青木香代子・安龍洙（2018）「日本社会における東南アジア出身交換留学生の異文化理解に関する一考察」『茨城大学全学教育機構論集 グローバル教育研究』第1号、13-27.
- 安龍洙（2011）「外国人の対日観の変容に関する研究—ベトナム人留学生の場合—」『茨城大学留学生センター紀要』第9号、1-8.
- 安龍洙（2016）「インドネシア人交換留学生の日本留学観に関する一考察」『茨城大学留学生センター紀要』第14号、1-17.
- 石鍋浩・安龍洙（2019）「東南アジア出身留学生は日本のサブカルチャーを通して日本をどうとらえているか」『茨城大学全学教育機構論集 グローバル教育研究』第2号、59-72.
- 伊藤春子・比留間洋一（2019）「私費外国人留学生の特徴—アルバイトに関する意識調査から—」星城大学『研究紀要』第19号、29-36.
- 岩切朋彦（2018）「『働く留学生』をめぐる諸問題についての考察（2）—福岡市の日本語学校に通うネパール人留学生のエスノグラフィー—」『鹿児島女子短期大学紀要』第54号、37-49.
- 閻琳・堀内孝（2019）「在日外国人留学生のアルバイト職務満足感—自己決定理論に基づく検討—」『心理学研究』第90巻第2号、178-186.
- 日本学生支援機構（2019）「平成29年度 私費外国人留学生生活実態調査 概要」https://www.studyinjapan.go.jp/ja/_mt/2020/10/seikatsu2017.pdf（最終閲覧日：2020年11月1日）
- 日本学生支援機構（2020）「2019（令和元）年度外国人留学生在籍状況調査結果」https://www.studyinjapan.go.jp/ja/_mt/2020/08/date2019z.pdf（最終閲覧日：2020年11月1日）
- 八若壽美子（2012）「マレーシア人留学生の日本・日本人イメージに関する事例研究」『茨城大学留学生センター紀要』第10号、43-57.
- 松田勇一（2013）「外国人の対日観の変容に関する研究—ベトナム人留学生の場合—」『茨城大学留学生センター紀要』第11号、97-111.